

九州地方の県民性

小林 隆一*

1 県民性とは

◆広辞苑に載っていない言葉——県民性

人はよく「薩摩隼人は信念を曲げない一本気な人」,「大阪人は食通で,京都人は着道楽」,「長野県人は理屈っぽい」,といったように,県民気質を土地柄でたとえます。また,「さすが薩摩の男だ。肝が据わっている」,「彼は岩手県人なので無愛想だ」と出身地の県民性を引き合いに出して人物評定したり,「山口県と福島県の相性が悪い」といわれるように,長州と会津の戊辰戦争の遺恨ははまだ尾を引き,両県の確執は根深いものがあります。

このように,私たちの日常に県民性は根付いています。だが,「県民性」という言葉は,学術用語として認知されてはいません。その証拠(?)に,広辞苑や大辞林といった国語辞典に,「県民性」という言葉は載っていません。この件に関する詮索・能書きは後日に譲るとし,ここでは「県民性とは,行政区分による各都道府県内の精神風土に関する地域性を指す。それは地域の自然や歴史のもとで育まれてきた,その地ならではの気質・気風にほかならない」と定義し,県民性を考察します。

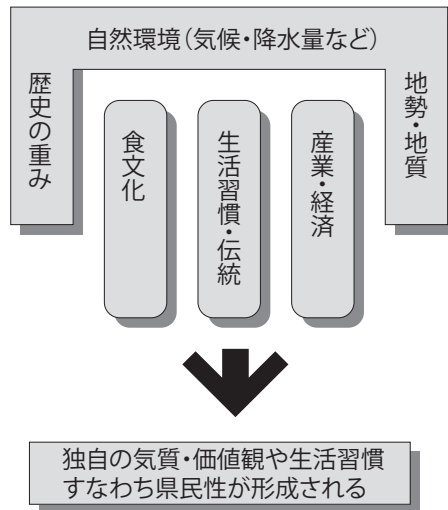
なお,鹿児島への切り花の年間購入金額が多い,長崎のカステラ購入率が高いといった食事の好みや傾向,福井県の一帯あたり預貯金額は全国1位といった支出金額の差や消費傾向などの消費傾向を含めて県民性とする見方もあります。だが,県民性の本質は気質とすると,消費傾向などは県民性という属性から派生する現象であり地域格差や地域特性とするのが妥当でありましょう。

豊かな海に四方を囲まれた日本列島の内陸は,険しい山と川にへだてられ,盆地ごとの小さな地域社会の連合体が形成され,各地域に個性豊かな文化を生み出してきました。情報化社会の進展によって文化の画一化が進み,地方の特徴は薄れてはいます。加えて,道路・交通網の整備が進み,県境を越えての人々の移動は日常化しました。こうした均一化が進む時代にあって,行政区分で地域性を見るのは時代遅れでナンセンス,との指摘も聞かれます。

しかしながら,律令の時代から歴史が育んできたお国柄,特有の気質といった地域性は今も色濃く残っています。また,同じ地域の中で生活し,互いに「文化を共有」していることから,物の見方や考え方,生活習慣や嗜好といったものに,一定の傾向や共通性が見られることは必然性を持ちます。

こうした理由から,人それぞれが生活し仕事を営んでいる行政域単位で地域性を探り,その変化の方向を観察していくことは,時代の動きを見すえていくうえで,興味深くまた,地域特性を知る上からも有意義な事であります。

* 本学経済学部教授



図表－1 県民性形成のプロセス

◆県民性は、風土・歴史によって生まれ形成されてきた

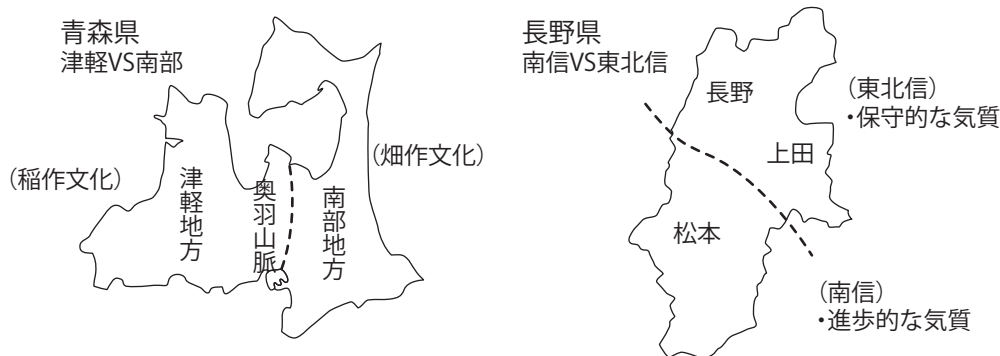
鹿児島県の場合、中世まで多くの荘園に別れていた薩摩、大隅の二国と日向の一部地域が、島津によって統一・支配されていく中で、島津家の持つ気質、文化の押しつけ、浸透を図り、これが江戸時代に薩摩藩特有の気質、文化が形成されました。

なお、同じ県内であっても南北で、あるいは山や川を挟んで土地柄が違うといった状況も、数多くみられます。山、川などの地勢や自然環境、遠く律令の時代にさかのぼる藩、旧国名制度の歴史とその名残、そこから生じた民俗・生活様式などにより気質は異なり、県内でも地域によって気質、生活慣習が大きく異なるという例は各地に見られます。

著しい違いを示す象徴的な事例として、長野県があげられます。長野県は長野、上田、佐久、松本、伊那と六つの盆地それぞれが生活・文化・経済圏を形成しています。幕末に松本、諏訪、上田、など11藩があり、異質な地域社会が構成されていたものを、廃藩置県で一つの県にまとめたという経緯から、「長野県は信州合衆国だ」と言い切る県民もいるほどです。

また、愛知県は、古代は、尾張国(木曾川・庄内川地方)、三河国(西三河の矢作川地方)、穂国(東三河の豊川地方)の3国に分かれていましたが、大化の改新後、尾張、三河の2国となり、これが江戸時代まで続きました。明治4年の廃藩置県で、尾張(知多郡を除く)は名古屋県に、三河と尾張の知多郡は額田県となり、明治5年に名古屋県は愛知県と改められ、同年額田県を廃して愛知県の管轄に移し、尾張国、三河国は愛知県として統一されました。こうした経緯もあって尾張と三河では、土地柄、気質ともに異なります。

同様な事例は、青森県の弘前 v s 八戸、山形県の山形市 v s 酒田市、広島県の広島市 v s 福山市、静岡県静岡市 v s 浜松市など全国各地に見られます。



図表－２ 県内でも価値観や生活習慣は大きく異なる

２ 九州各県と沖縄の県民性

上述を踏まえて、鹿児島県と九州各県と沖縄県の県民性を概括します。

◆鹿児島県の県民性

鹿児島県は、日本の南に位置するという地理的条件から、古くから中国や韓国、東南アジアをはじめ世界の国・地域の文化と接しながら、独自の歴史や文化を作り上げてきました。また、鎌倉時代から江戸時代まで一貫して島津家の支配下にあったことや、長州と連合して明治維新につくしたという歴史的背景があって国家・郷土意識は強く、“利”より“義”を重んずる「武士の魂」で「才知ある商売」を行うという「士魂商才」の思想が根づきました。

薩摩隼人（男）は、利害を省みない潔さと、勇猛果敢さを兼ね備え、質実剛健を旨とします。上下関係に厳しく、年長者の影響力が強い体育会系気質でもあります。

反面、「ばっけもん」といわれる言葉に象徴されるよう一本気で融通が利かないともいわれます。「焼酎気質」ともいわれるのは、“薩摩隼人”は、熱しやすく冷めやすいという気性を表す言葉であります。

一方、「薩摩おごじょ」と呼ばれる女性は、控え目で気立てがよく、でしゃばる事が少なく気持ちが優しい女性が多いとされます。これはまた、男性をうまく引き立てる能力に長けるという表れでもいえます。

なお、守旧、保守的で排他的傾向の強い土地柄は愛知県になぞられて『鹿児島モンロー主義』ともいわれています。

◆福岡県の県民性

古来より中国大陸、朝鮮半島との交流がさかんであったという背景から、福岡県人の気質は開放的で自由闊達で進取の精神に富みます。そして中心地博多は、「もてなしの街」であり、おう盛なサービス精神は、いまに続きます。一流芸能人を多数輩出しているのもこうした、風土の表れでありましょう。

地域的には、工業地域の北九州周辺は気性が荒くきつぷはいいが、小心者。久留米は、どんなときにもくじけず、明るく生きていく反面、お調子者とも。博多を中心とする筑後は都会的で少々底意地が悪く、見栄っ張りでケチ。炭鉱地帯だった筑豊はおおらかな気質と、細分化されます。

◆佐賀県の県民性

鍋島氏は徳川250年の歴史を通じて転封、改易もなく、一貫して肥前の領主でした。地方に興った武将で、徳川初期から幕末まで同じ国を支配し得たものは九州では鹿児島の島津氏と佐賀の鍋島氏のみです。

保守的ともいわれる佐賀人の気質は、この長い鍋島藩政による影響は多です。

「佐賀人が通ったあとには草も生えない」とは、貧乏性でムダ遣いを嫌う佐賀県人を揶揄した言葉です。徳川の参勤交代時代のこととして、信州路の宿場に、次のような戯れ歌が残っています。「人の悪いのは鍋島、薩摩 日暮れ六ツ泊りの七ツ立ち」、これは午後6時に泊まり、翌朝午前4時の早出発、鍋島藩のミミッチさを歌ったものです。(出典：長野県観光連盟編 信州歴史の旅 令文社刊)

なお、佐賀は「武士道とは死ぬことと見つけたり」と精神論を説いた「葉隠 (はがくれ)」の本場でもあります。「佐賀には何もなか (ない)」と自嘲するのが佐賀県人氣質。これは、頑固一徹、几帳面で融通の利かなさを物語ります。女性は、「佐賀美人」の言葉通り、魅力的な人が多い。おとなしそうに見えても、しっかりもので辛抱強いといえます。

地域的には、北部(唐津、伊万里など)や東部の鳥栖などは明るく、物わかりのよい人が多い。口下手だから愛情表現は苦手だが、意外と情熱的。

◆長崎県の県民性

長崎の県民性は、解放的で楽天的だが粘り強さにかけるという。また、男尊女卑の風潮が強い九州にあって男女平等意識は高い。福岡同様、古来から海外との交流が盛んで、鎖国時代は日本唯一の海外との窓口でありました。こうした歴史風土から、ヨーロッパや中国などの影響を受け、独特の文化や歴史を形成してきました。

2003(平成15)年県政世論調査(長崎県実施)によると、県内定住意向が75.0%(2000年調査81.8%)とあるように、県民の定住指向の強さは定評あるところです。

◆熊本県の県民性

土佐の「いごっそう」となれば、「もっこす」は、男性気質を示す言葉です。「肥後モッコス」は、心に秘めて、外には出さない熊本男子の男気を表す代名詞。反面、熊本男児は偏屈で頑固、融通が利かない強情者ともいわれています。なお、熊本の女性は、忍耐強いしっかり者が多いということです。

◆大分県の県民性

大分の県民気質は、「実直ながら概して無愛想。淡白で何事もうけ入れる柔軟性をもつ」ことです。これは、大分は、瀬戸内海に面し、大阪商人との取引があったことや、16世紀、キリシタン大名大友宗麟(1530-87年)の時代、南蛮貿易でポルトガルとの交易拠点であったことが多分に影響しているようです。

なお、大分県は秀吉によって所領が細分化されて以後、明治まで小藩分立の時代が長く続いたという歴史的背景から、郷土意識は薄く、個人主義で協調性に乏しく、「排他的、利己的、協調性を欠く」という気質が今に残ります。こうした県人氣質を評した言葉「赤猫根性」は、こうした歴史的背景が大きく影響しています。

なお、「実直ながら、概して無愛想」、あるいは「短気で早口、ケンカ早い」ともいわれる由縁は、九州他県の言葉が、比較的ゆっくりして鷹揚なところがあるのに対し、大分の方言にはこれがなく、標準語に近いという要因によるところが大きいようです。

◆宮崎県

県民性のおおらかさ、優しさには定評があるところです。宮崎県は、天照大神(アマテラスオオミカミ)と素戔男命(スサノオノミコト)の天孫降臨伝説に代表される歴史と伝統文化を有します。また、宮崎は豊臣秀吉の時代に所領が決まって以来、大きな戦乱も対立もなく、比較的平穏な時代を長く過ごしてきました。

した。こうした歴史風土を反映して、「一生で一度しか嘘をつけないおおらかで正直な農業型」ともたとえられるよう、おっとりした性格、温和な性格の人が多く、評価されるようになったのでありましょう。また、宗教心があついのも宮崎県民の特徴の一つです。

反面、お人好しとの評も聞かれます。このような県民性は、宮崎県の土地は豊かで気候は温暖という恵まれた風土、土地や物価が安く、暮らしやすいという、経済環境も多分に影響していると思われれます。

◆沖縄県の県民性

約450年続いた王国の歴史は幕を閉じましたが、誇り高き琉球文化は、今に継承されています。琉球王国はその恵まれた地理上の位置を生かし、中国との朝貢関係、東南アジア各地との交易、江戸幕府との交流を通じてヤマトの文化を吸収し、工芸、芸能、祭祀及び風俗面で、独自の風土を有する豊かな文化と芸術を育んできました。

複雑な歴史的経緯から県人意識、郷土意識、同族意識が強く、沖縄の「イチャリバチョーデー（行き会えば兄弟）」という言葉は、地域の強い連帯意識と、親密な人間関係といった県民性を象徴する言葉でもあります。

また、沖縄の「ウチナー（沖縄）タイム」という言葉は、おおらかな風土を反映しての、せかせかしない独特の時間感覚を言い表しています。会合などに30分位遅れても、あたりまえ。それを謝るでもなく、また、責めることもないという。

県民性一覧

| | |
|------|--|
| 福岡県 | 昔から大陸との交流が盛んな土地柄もあって、気質は開放的である。新しいモノ好きで楽天的、かつ人間的な魅力を持つ。ただし金遣いが荒く、ギャンブル好きが多い土地柄との声も聞かれる。 |
| 佐賀県 | 「武士道とは死ぬことと見つけたり」と説いた「葉隠（はがくれ）」の精神は今に生きる。まじめで頑固一徹、几帳面の裏返しは融通が利かないともいえる。 |
| 長崎県 | ◆海外諸国の影響を受け、独特の文化や歴史を形成。なお、長崎県の犯罪発生率が全国で最も低く、検挙率も非常に高い。NHKの全国県民意識調査によると倫理観に関する数値は、全国平均よりも高いことなどから、県民の倫理観が強いことがうかがわれる。 |
| 熊本県 | 「肥後モッコス」は、心に秘めて外には出さない熊本男子の男気を表す代名詞。反面、熊本男児は偏屈で頑固、融通が利かない強情者とも言われる。対して、熊本の女性は、忍耐強いしっかりし者が多いという。 |
| 大分県 | 「赤猫根性」とは、「ずるがしこくて計算高く、偏狭」、「利己的で協調性がない」という自虐的表現。好意的に解釈するならば、大分県人は決して大勢順応型でなく、自己主張が強いという傾向の逆説的表現とも受け取れる。 |
| 宮崎県 | 土地は豊かで気候は温暖という、恵まれた風土からか、おっとりした性格、温和人が多いという。人とのつきあいは親密で、信頼感が強いのが宮崎県民の特徴である。 |
| 鹿児島県 | 国家・郷土意識は強く、「利」より「義」を重んずる「武士の魂」で「才知ある商売」を行うという「士魂商才」の思想が根づく。薩摩隼人（男）は、利害を省みない潔さと、勇猛果敢さを兼ね備え、質実剛健を旨とする。上下関係に厳しく、年長者の影響力が強い体育会系気質でもある。反面、守旧、保守的で排他的傾向の強い土地柄。上下関係に厳しく、年長者の影響力が強い体育会系気質でもある。 |
| 沖縄県 | イチャリバチョーデー（行き会えば兄弟）。明るく大らかな風土に生まれ、地域の連帯意識が強く、人間関係が極めて親密で、県人意識、郷土意識は強い。 |

*筆者のホームページ『マーケティング&マニュアル・ゼミ』<http://kobayashi.clever.mepage.jp/>では、県民性に関するコンテンツを開設しております。

参考文献

- 1 武光誠『県民性の日本地図』文芸春秋, 2001年
- 2 新谷尚紀『民俗学がわかる事典』日本実業出版社, 2003年
- 3 農文協編『日本の食文化⑫』農山漁村文化協会, 2006年
- 3 小林隆一『基本エリアマーケティング』評言社, 2002年